建学の精神

混沌とした時代の中で，生きる指針を示す言葉。

名古屋学院のスクールモットーは、約 120 年前にアメリカからやって来た宣教師クラインが定めた「敬神愛人」です。

神を敬い人を愛する。それは崇高な真理を追い求め、決しておごり高ぶらず、自立して他者に仕えるという生き方を示しています。今のような時代にあっては、ともすれば人は恣意的な自由に流れ、他者を思いやる気持ちを忘れて生きてしまいます。「敬神愛人」の精神を若い時代に心に刻むことにより、他者の為に生き、真に社会に貢献できる人となってほしい、それが名古屋学院で学ぶ人々への望みです。

名古屋学院　校章・マーク
聖書の中に書かれた「TIMETE DEUM」はラテン語で「神を敬え」。A・J・C は名古屋英和学校の頭文字、オリーブの葉は平和のシンボル、クライン・メモリアル・チャペル、「FEAR GOD LOVE PEOPLE」は「敬神愛人」を表わしています。

学校法人 名古屋学院

〒461-8676　愛知県名古屋市東区砂田橋2-1-58

TEL：052-721-5271　FAX：052-721-5277

創立

1883 年（明治 16）アメリカ・メソジスト・プロテスタント教会海外伝道局本部は、横浜における伝道事業を強化するためにフレデリック・C・クラインを日本に派遣しました。クラインは、外国伝道局が日本に派遣した初めての男子宣教師でした。これに先立つ 1880 年（明治 13）同婦人海外伝道会は、ブリタン（ブリテンとも）女史を日本に派遣し、横浜で伝道と教育にあたらせていたので、クラインはブリタン女史とともに日本における活動を開始することになりました。

クラインは横浜美普教会の創設、男女共学のブリタン学校から男子校を独立させるなど、外国伝道局の地区総監督者として活発な活動を展開しました。

1885 年（明治 18）5 月、クラインは伝道状況調査のため名古屋、京都、大阪を訪れました。初めて訪れた名古屋で英語専門の学校設立への協力を求められました。

当時の名古屋は仏教色の強い保守的な土地柄で、プロテスタントの教会はいくつか開設されていたものの信徒数は少なく、外国人宣教師は一人もいませんでした。このような状況を知るに及んで、クラインの開拓伝道の意欲は燃え上がり、名古屋在住の日本人の協力を得て、1887 年（明治 20）名古屋市南武平町（現・中区）に〈私立愛知英語学校〉を開設し、これが名古屋学院の前身となりました。開校当時の生徒数はわずか 12 名でした。1898 年（明治 31）には、長久寺町に校舎を移転しました。

1899 年（明治 32）に私立学校令が公布されたのに従い、校名を〈私立名古屋英和学校〉と定め、1906 年（明治 39）に〈私立名古屋中学校〉として認可されました。戦後諸制度が改められていく中で、1948 年（昭和 23）新制高等学校の設置も認められて、新校名を〈財団法人名古屋学院〉と定め、1951 年（昭和 26）学校法人に組織変更しました。生徒数の増加、同時に将来の上級学校設置への意図も含ませ、大幸校地の整備を進め、1955 年（昭和 30）9 月、全校が大幸学舎に移転しました。

創立者　フレデリック・チャールズ・クライン
（1857～1926年）
「敬神愛人」の精神で、名古屋における
キリスト教開拓伝道を行ないました。

創立の背景と歴史

名古屋学院は数度の移転と戦災などにより、創立当初の文書の多くが失われ、クラインの人となりを窺い知ることは難しい状況です。しかし英和学校第 1 回の卒業生で、直接クラインの薫陶を受けた牧野義雄がイギリスで出版した自伝などが日本語にも翻訳され、それに伴い、再評価が進みました。

牧野は卒業後に渡英し、イギリスで画家として名声を博した人物です。牧野の著した自伝には、クラインの人となりが生き生きと描かれています。

牧野によると、1888 年（明治 21）9 月、クラインが病を得てアメリカへ一時帰国するときには、クラインとの別れを惜しんで人力車 50 台以上に人びとが乗り込み、熱田の港までクラインを見送ったといいます。3 マイルほど沖にクラインが乗る蒸気船が泊まっており、牧野たちが和船に分乗して蒸気船まで近づくと、クラインは牧野に向かって「私が戻ってくるまでに英語を完璧に話せるようにして、熱心なキリスト教徒になってくれるね」と語りかけ、牧野のために自分の寝室に革靴を置いてきたので履くように、と言ったそうです。このようなエピソードから、クラインの人柄と名古屋伝道に対するクラインの揺るぎない意欲と信念をうかがい知ることができます。

また、クラインが横浜から持参したと思われる旧約聖書注解書が、2001 年（平成 13）に奇跡的に発見されました。表紙の裏に Women's Foreign Missionary Society（婦人海外伝道局）と記されているこの本についても、牧野は次のように記しています。

「宣教師は聖書の時間に大きな本をいつも持ってきた。クラーク先生の聖書注釈本ということなので先生にお願いして貸してもらった。読んでみると学者が念頭にあって書かれたものであり、自分には参考にならなかった」

当時においては大変貴重な聖書注解書であったと考えられ、牧野がこの本を英語の原文で読み、しかもこのような感想を述べるということは驚くべきことであり、クラインら英和学校教授陣の優れた教授法と指導をうかがい知ることができます。

キリスト教を教科として認めない愛知県との激しい対立など、英和学校の歩みは当初から受難続きでしたが、クラインは時の外務教 伊藤博文に直訴状を書くなど、伝道に対する信念を譲りませんでした。この直訴状は、外務省資料として現存しています。

クラインは 1893 年（明治 26）に帰国し、メソジスト・プロテスタント教会の役職を歴任した後、1926 年（昭和元）12 月 27 日にメリーランド州バーウインの自宅で天に召されました。クラインが残した校訓「敬神愛人」の精神は今日でもなお、名古屋学院に学ぶ生徒たちの心に刻まれ続けています。